

実態		<ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく、男女の仲も良いが、休み時間では、特定のグループで集まって遊ぶ姿が見られる。 ・委員会活動や当番活動に責任を持って取り組んでいる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをノートに書くことはできているが、進んで発表できる児童は少ない。 ・話を聞くことはできているが、自分の思いや考えを自分なりの言葉で表現することが苦手な児童が多い。 ・<u>宿題などの提出物が出せていない児童が数人いる。</u> ・算数では、<u>昨年の学びの診断の結果から記述式の解答形式について正答率が低かった。</u>
教科学力		<ul style="list-style-type: none"> ・算数科では、<u>少人数指導、習熟度別指導を行い、きめ細かな指導をする。問題解決に向けた見通しの場面では、これまでの学習で行ってきた図や考え方などを想起させながら提示していくようにする。問題解決の場面では、図や式を根拠に自分の考えを示せるように指導し、前に出てきて発表する機会を多く設ける。</u> ・場に応じてグループやペアでの話し合いを取り入れ、自分の考えを伝える場を設けるようにする。また、友だちの意見に対してハンドサインやうなずきなどの反応をするよう促す。 ・朝の学習に時間には、漢字や計算の学習を行い、学びの基礎を養う。 ・朝の会では継続して日直のスピーチを行い、気になるニュースや本について紹介し合うことで、社会の出来事への関心や読書への意欲・動機づけを図っていく。
学びの基礎力	重点指導	<ul style="list-style-type: none"> ・五箇東スタンダードを学習の基本的なルールとする。 ・東っ子けんこうカードをもとに、自らの生活習慣の見直しができるようにする。 ・東っ子のノートの使い方をもとに、わかりやすい（自分なりの）ノートの指導をする。 ・自主学習、読書活動の充実を図るために、読書ノートやがんばりカードを活用する。 ・<u>月ごとに持ち物がそろっているか視覚化できるように、持ち物カードを活用する。</u>
	家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・計算、漢字、音読（週末は20分間読書）を毎日の家庭学習として出し、基礎・基本の定着を図る。 ・自主学習ノートを活用して、自分なりの課題を設定して、学習できるように促す。
社会的実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・学年目標「躍動～全力・笑顔・助け合い～」を校外学習や体育大会などの行事だけでなく、日常生活においても意識させる。各自が月ごとに自分の目標を立て、毎月行う学年集会では、担当月の児童が目標やふりかえりを発表する場を設ける。 ・一人ひとりが生き生きと活動できるように、互いを認め合う集団づくりを継続して行う。また、各行事において全員が一度は実行委員を務め、責任を持って取り組めるようにする。 ・<u>修学旅行、連合運動会を通して、集団行動や自主的態度を養う。</u>

※1学期から変更・付け加えた部分には下線を引いています。